



学校は、友だちを思いやるところ

校長 齋藤 博敏

令和6年度の教育活動が始まりました。22名の新1年生を迎え、全校児童123名（偶然にも、今年度は創立123年目）、職員は4名が転入し、教職員15名でのスタートです。その他、拠点校指導員の前田久美先生、ALTの佐久間アキ先生、日本語指導員の石原真由美さん、図書館支援員の高橋こず絵さんが子どもたちの学びを支えてくれます。

今年度も、保護者の皆様、地域の皆様の御理解・御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

昨年度の始業式で、「学校は、学習するところ」であると子どもたちに話をしました。今年度の始業式では、下記のような例（概略）をあげ、「学校は、友だちを思いやるところ」でもあることを話しました。

「みんなと違う」「みんな違う」似ているようで、ちょっと違うよね。
(子どもたちからは、“と”の一文字が違う)

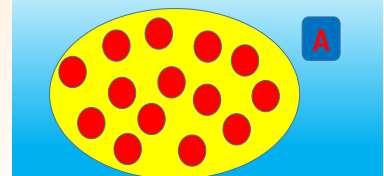
では、意味はどう違うかな？ これを図にしてみました。

まず、「みんなと違う」(図1)です。この図を見て、どんなことを思いますか？(子どもたちからは、“仲間はずれ”“いじめ”みたい)「自分たちは丸い形をした同じ仲間。でも、Aさんは、自分たちと形が違うので、仲間じゃないんだ」という見方です。

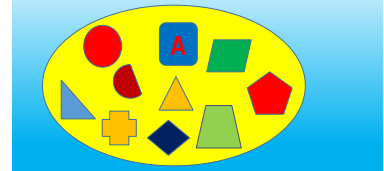
次に、「みんな違う」(図2)です。Aさんにも他の人にもそれぞれに異なる違いがあり、みんな輪の中に入っています。(この違いは、体格の違い、男女の違い、性格の違い、感じ方や表現の仕方の違い)

それぞれの違いを認め合い、それぞれを思いやり、123名一人一人が安心して、幸せに過ごせる佐々木小学校をみんなで作っていきましょう。

「みんなと違う」(図1)



「みんな違う」(図2)



「学校は、学習するところ」「学校は、友だちを思いやるところ」この二つについては、平素より、子どもたちに話をしてきました。

今、学級の仲間関係はどうなっているのか。もしかすると「みんなと違う」関係をつくってはいないか。新年度を迎え、学級の仲間関係を振り返る機会となればと思い、あらためて子どもたちに話をしました。

「みんな違う」のように、学級、全校のみんながそれぞれの違いを認め合える関係のなかで、お互いを思いやり、誰もが安心して過ごせる**幸せな学校**づくりに、教職員一丸となって取り組んでいきます。